

城のある都市復活

# 福岡城だより

2019.冬  
WINTER  
No.60

迎春



福岡城彩発見フォトコンテスト  
入選作品「足早に急ぐ少女」  
堀 康二

## 福岡市美術館のリニューアル

福岡市美術館長

錦織 亮介



福岡市美術館は二〇一九年三月二十一日にリニューアル・オープンいたします。

開館以来四十年近くになり、施設・設備・展示環境の老朽化が目立ち始め、特に美術品の保護に欠かせない空調設備の危うさや、ユニバーサル・デザインへの未対応などが理由でした。

工事期間は実質一年でしたが、一万六千点におよぶ美術品の搬出と再搬入という神経を使う仕事があり、二年半の長い休館になりました。

リニューアルの詳細はご来館の折に見ただくとして、外観は大濠公園側に新しい入り口をつくった以外ほとんど変わっていません。いや、変えませんでした。世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の設計者建築家ル・コルビュジェの弟子、前川國男の設計になる建物で、大濠公園との調和もよく、彼が設計した多くの美術館のなかでもすぐれた建築で、将来に向かって美術館が継承保存してゆくべき美術作品だからです。大濠公園街路から一階に直接入れる新アプローチとカフェを新設したのは、公園を訪れる多くの人たちに美術館に入りやすくする試みです。

リニューアルは、建物・設備などのハード面だけではなく、美術館活動や運営などのソフト面においても新しい取り組みを行います。

将来、大濠公園と舞鶴公園を一体化するセントラルパークのなかで、福岡市美術館は美の殿堂として永く市民に愛される美術館であり続けるでしょう。



# シリーズ 在りし日の福岡城・鴻臚館への誘い - 1

福岡市民の会会員 室川 康男

共働事業のテーマの一つとして、「市民目線の案内標識」のため、在りし日の福岡城・鴻臚館の画像作成依頼があり、水彩画の原画をベースにして画像データを作成しました。画像は現地案内標識、そのほかの広報活動においてイメージ画像として広く活用していくことになりました。実行委員会で決定された32場面(福岡城：20、鴻臚館：12)の画を、福岡市の時代考証や残存している古写真などを参考に、ドラマティックな場面構成になるように「市民目線」を大切に作成しました。

これらは「史跡の往時の姿やそこで繰り広げられる人々の生活、活動を想像させる情景」をリアリティに表現したものです。案内標識の画像は風景と対峙させて設置することによって、来訪者が現地風景と重ね合わせながら想像力を膨らませて、説明文(日、英、中、韓、4ヶ国語)とともに在りし日にタイムスリップして、ワクワクと回遊できることが狙いです。

この手法は欧米では広く用いられている遺跡保存手法の一つです。廃墟を完全に復元しなくても往時の姿や情景を想像たくましくロマンを持って認識できるように、遺跡を現状の姿のまま整備し、遺跡が今日まで辿ってきた歴史的時間の痕跡までも大切に保存しています。

(写真は上ノ橋御門跡)



往時の情景



古写真



現状風景



案内標識設置イメージ

シリーズ

## 舞鶴公園の四季「冬」

元舞鶴公園管理事務所所長 松本 伸三郎

舞鶴公園の冬の花ならさんか・やぶつばきなどのツバキ科の仲間とすいせんとうめです。

ツバキの仲間は12月から3月まで園内を飾ってくれます。

「福岡市の花(冬の花)」のさんかは代表的な品種「勸次郎」がテニスコートの東側にあります。同じツバキ科のやぶつばきは、園内に約300本あり、メジロたちが蜜を吸いに行っています。小型の花をつける「佗助」が多門櫓の南側に赤と白が、松木坂と城内道路の間にはえているむくのきの根元には誰が植えたか赤と桃色の株があります。

次にすいせんですが、牡丹・芍薬園の東から南にまわる斜面にたくさん生えています。園内の他の所にも生えています。場所や気候によってばらつきがあるのか満開の時期が12月のところがあれば3月になるところもあるおもしろい植物です。ほのかな香りも楽しませてくれるすいせん、お奨めは牡丹・芍薬園への坂道の左側に咲く「八重咲」のものです。

花の最後はとうめ。昭和50年にできた二の丸の梅園には紅梅・白梅・枝垂れ梅など約30種・270本のとうめがあります。お奨めは表御門跡の石段の左手前の「思いのまま」で、紅と白と咲き分け、中には一輪の中に紅と白が入るものがあります。毎年2月下旬の「梅まつり」には多くの来園者みなさんにうめを鑑賞していただいています。種類によって花の咲く時期が違っているので1月下旬から3月上旬



ウメ「思いのまま」：梅園



ヤブツバキ：北駐車場北側



サザンカ「勸次郎」：テニスコート東側

旬まで楽しむことができます。

花の次は、渡り鳥たちです。「秋鳥」でひとりごの到着をお伝えしましたが、それに続きはしじろ、まがもなどもやってきます。その他にきんくろはじろ、はしじろがもと一年中いる留鳥のいるがもといて6種類のかもと、2年間の在職に出会うことができました。

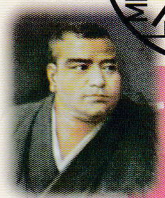
数の多いほうからの順番は、ひとりごも・はしじろ・まがも・かるがも・きんくろはじろは・はしじろがもでした。

雌雄とも頭に冠羽があるきんくろはじろは、大濠公園には多く渡ってきますが、舞鶴公園の濠には少ししかやってきません。おそろく広い水面を好むのでしょうか。それとはしじろがもには、1番(つがい)しか出会えませんでした。

かも類以外では「福岡市の鳥(海の鳥)」のゆりかもめもがレギュラーです。濠端の園路にずらっと並んで飛び回るなどわがもの顔で冬を過ごしています。是非目にしていただきたいのが、凍った濠の氷の上に降りている姿で、まるで水上に立っているように見えます。おおはんも黒い姿に白いくちばしと額がなかなかダンディーな鳥で、冬の脇役になっています。

舞鶴公園の冬、いろいろな生き物が頑張っています。彼らの姿を記録するためにカメラを持ってぜひお出かけください。彼らも待っています。





## 福岡市民の会歴史探訪バスツアー

### 第2弾

〔実施日〕平成30年10月20日

# 「西南戦争」最大の激戦地「田原坂・山鹿口」を訪ねる！

—— 西郷隆盛のルーツ、菊池・増永城跡もたずねる ——

薩軍1万3千人は「政府に訊問の筋これあり」との届書を政府及び沿道府県に通告し、明治10年2月15日（旧暦1月3日）、10年前の鳥羽伏見開戦の日）大雪のなかを熊本に向け、大隊ごとに意気軒昂に北上していきました。

2月22日熊本城を総攻撃後、一部の兵力を熊本城包囲に残し、主力は菊池川河畔まで北上、熊本隊・熊本協同隊等とも合流し、2月25日より高瀬（現玉名）方面、26日より山鹿方面に於いて、南下する政府軍と交戦開始。以後4月14日の人吉への一斉退却まで、約2カ月に及ぶ「田原坂・山鹿口」地域を中心とした陣地争奪戦を繰り広げました。

以後5月29日人吉から宮崎へ、8月15日延岡和田越え、8月18日可愛岳越え、9月1日鹿児島島の城山に帰りつき最後の戦いを挑みます。24日官軍の城山総攻撃を受け、西郷隆盛は岩崎谷で銃弾に倒れ、別府晋介の介錯により自決しました。享年50歳。

官軍の兵力6万人（戦死戦傷者1万6095人）に対し薩軍3万3千人（戦死戦傷者1万7476人）だったと言われています。



西南戦争の軌跡 1877年（明治10年）

### ◆ 高瀬の戦い（2月25日～27日）

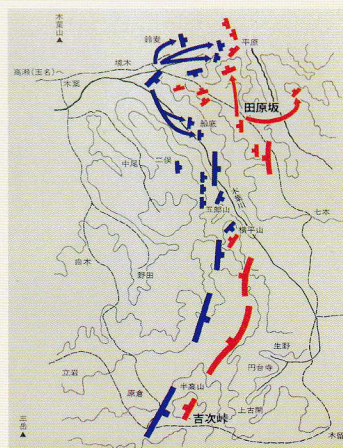
官軍第一旅団、第二旅団と薩軍一番大隊（篠原国幹元少将）二番大隊（村田新八元少将）四番大隊（桐野利秋元少将）が高瀬市街戦から菊池川を挟んで大激戦を展開しました。27日西郷の末弟小兵衛（31）が戦死。

### ◆ 吉次峠の戦い（3月4日～4月1日）

官軍第一旅団野津大佐指揮の部隊は夜を徹して砲撃を加えたが薩軍はびくともせず、官軍近衛連隊江田少佐は、薩軍の陣頭指揮をしている篠原国幹の姿を発見し部下に狙撃を命じました。一発の銃弾で篠原は吉次峠に散りました。江田少佐もこの戦いで薩軍から狙われ戦死しました。この方面は、高瀬方面から熊本城に通じる道として、田原坂同様に軍用道路であったため、もともと熊本隊（隊長佐々友房）が死守していました。

### ◆ 田原坂の戦い（3月2日～20日）

最大の激戦地です。両軍の死傷者総数は、官軍が5653名、薩軍が2491名です。このころ、雨がよく降りました。まさに「雨はふるふる、人馬は濡れる、



田原坂戦闘配置図 官軍＝青 薩軍＝赤

### ◆ 山鹿口の戦い（2月26日～3月21日）

越すに越されぬ田原坂」です。3月20日官軍の総攻撃により、遂に薩軍の田原坂陣地が落ちました。しかし、その周辺地域では4月15日まで薩軍の抵抗にあい、それまで官軍の熊本城入城は出来ませんでした。

山鹿口の戦いは、田原坂の戦いと並んで激戦地でした。

官軍第三旅団、薩軍四番大隊（桐野利秋元少将）が両軍相会戦すること五回！！鍋田台地を主戦場として戦いが繰り返されました。この方面の薩軍には、開戦当初より熊本協同隊、宮崎の飢肥隊も戦列に加わっていました。

## 西郷家のルーツは熊本の菊池一族だった！

西郷隆盛が奄美大島に潜在した時「吾の源は菊池にあり」と「菊池源吾」と名乗り、自らのルーツを菊池一族に求めました。

奄美の妻「愛加那」との間に生まれた長男には菊次郎、長女には菊草と、菊の字を付けたのは、自身が一族の末裔であることを意識していたことだったと言われています。

西郷家は、菊池氏初代則隆の長男政隆が一族の重臣として現在の菊池氏七城町西郷地区に移り住み、増永城（西郷城）を構え西郷太郎と称したことから始まります。

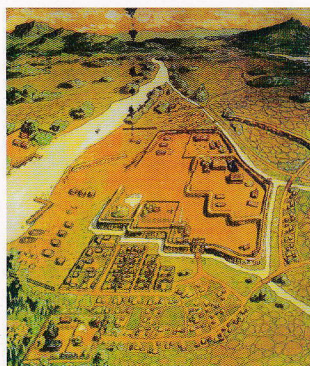
菊池一族は、鎌倉時代では「蒙古襲来」の時に十代武房を、南北朝時代では「南朝の忠臣」として十代武光を擁して大活躍した一族です。

西郷隆盛自身も西南戦争では官位剥奪されますが、明治16年に明治天皇から「隆盛は国の為に勤めた者であるから子供には留学させ、しるべく取り立ててはどうか」とのお言葉を賜り、翌年寅太郎はドイツ留学が決まりました。

明治22年2月、大日本帝国憲法発布の大赦により賊徒汚名が除かれ、さらに正三位が追贈されました。西郷を復権させることで天皇の心の内なる西南戦争は終わったのではないのでしょうか！

さらに明治22年10月、天皇の意を受け宮内省から五百円の下賜金があり、銅像建設計画が進展します。西郷の自刃から21年後の明治31年12月18日、かの有名な東京上野の西郷隆盛銅像除幕式が行われました。

## 十五代菊池武光公時代の増永城（想像図）



菊池市役所 都市整備課



# 報告 第11期 福岡歴史観光市民大学 (第11回から第20回)

第11期福岡歴史観光市民大学は、7月2日に開講、11月19日までに全講義20回が終了し、同日閉講式が行われました。

石井孝孝学長(当会理事長)から「毎回講義を聴かれてきた受講者の皆さまの向学心に敬意を表します。講師の方々も提供して下さったレベルの高い講義内容にご満足いただけたと思います。運営については至らない点があったかもしれませんが、低予算で展開している事業であり、皆さまのご理解をお願いいたします」との挨拶がありました。事務局からは「出席率70%以上の精勤者が105名(うち皆勤22名。平均すると約78%の出席率であった)」と報告がありました。

皆勤の受講者の中から、田中幸子様に代表で修了証が授与され、田中元様からは受講に至った経緯と、印象に残った講義の感想を発表していただきました。

今号では第11回から第20回までの講師と講義のテーマを紹介し、講義の簡単なまとめ、または受講者の感想や学長・事務局員の所感を簡単に付け加えます。(敬称略)



開講式

## 第11回 山田広明 博多弁と博多にわかつ〇〇と

博多にわかつ〇〇と、全国各地から先生自ら収集されたにわかつ〇〇の映像を交えながらの解説でした。講義タイトルの〇〇は、実は「落語」で、高座から「田能久」も披露していただきました。

## 第12回 松隈紀生 食の道具でみる日本料理の歴史

映し出された数々の道具の映像に「こんな保温ジャーあったなあ」「羽釜・・・なつかしい」との感想がもてられました。日本料理の様式についてのまとめは、日常生活に大変役立ちそうです。

## 第13回 中山喜一朗 浮世絵のオモテとウラと夢と現実の構図

浮世絵が世界から受けた影響、逆に世界に与えた影響を中心に話していただきました。江戸時代は、一般人が高い文化を楽しんでいた佳き時代だったことがわかりました。

## 第14回 木村 誠 博多の伝統工芸と今後の活性化のために

はかた伝統工芸館に展示されている工芸品の紹介から、それらを世界のブランドにするために、工芸館の方々がどのような取り組みをされているのかまで言及されました。

## 第15回 塩津圭介 能楽のお話―舞台での役割

シテ方と三役(ワキ方、囃子方、狂言方)の役割を解説していただきました。能は「想像力を働かせて楽しむもの」を実践すべく、実際に先生の舞を見てどのような場面なのかを発表する時間もあり、継続して受講されている方でも「あてられるかも」と少しドキドキされたそうです。

## 第16回 西垣彰博 糟屋評家・夷守邸と古代道路

先生が関与された糟屋の発掘現場や出土品の映像と、地図での位置の確認が、印刷された資料でより良く理解させてくれました。平城京とのすり合わせも興味深いものでありました。

## 第17回 石井幸孝 九州の鉄道の歴史

国家にとって鉄道とは何から始まり、鉄道の歴史・進化の概略を解説しました。JR九州の成長戦略や、九州新幹線が経済に与える影響などの内容に、講義終了後、数名の受講者が「聞きたかった話でした」と感想を述べられていました。

## 第18回 有馬 学 モノづくりの近代日本を支えた福岡人士

近代日本の形成に、福岡藩ゆかりの人物がいかに関わってきたかを、安川敬一郎、金子堅太郎、団琢磨を中心に語っていただきました。詳細な資料に受講者は感心されていました。

## 第19回 一瀬 智 江戸時代の朝鮮通信使

「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコの「世界の記録」に登録されて1年余り。両国の平和維持に大きく貢献したと評価される文書の解説と、そこに至るまでの歴史や裏話まで、興味深い内容でした。

## 第20回 田坂 大蔵 黒田藩の長崎警備

年表をたどりながら、福岡藩と徳川の動きを把握できるように話してくださいました。福岡市博物館所蔵の図絵のスライドにより、長崎港の警備体制が視覚的でわかりやすかったとの感想。博物館を再訪しようと思った方も多いのではないのでしょうか。

## 福岡城ガイドツアー

### 福岡城内巡りと古代官道歩き

澄み渡った空気の中、福岡城内や古代官道を歩きましょう。

- ①「福岡城内巡り」 2月17日(日) 10時～12時  
福岡城の礎を築いた長政の足跡をたどろう
- ②「石垣から見た福岡城」 2月24日(日) 10時～12時  
石垣といわれる福岡城の様々な石垣を探ろう
- ③「古代官道を歩く」 3月3日(日) 10時～13時(健脚コース)  
鴻臚館と大宰府を結ぶ古代官道を福岡城跡から大橋まで歩く

集合場所：①③の丸スクエア

参加費：500円(小学生以下無料、大人同伴)

申込・お問合せは福岡市民の会まで  
(締め切りは催行日の3日前まで：小雨決行)  
NPO法人福岡市民の会 ☎092・716・8238

## 第1回 福岡城・城下町フォトコンテスト

**A** 福岡城「彩」発見部門：舞鶴公園・大濠公園で発見した四季の彩  
**B** 城下町「再」発見部門：再発見した城下町らしさ

A・Bの二部門でA4判にプリントアウトした写真を募集します。  
締切り：3月29日(金、必着)  
応募要項など詳細は事務局にお問合せください。

福岡城・城下町フォトコンテスト実行委員会事務局  
NPO法人福岡市民の会 ☎092・716・8238

## 新規会員名簿(敬称略)

(平成30年12月31日現在)

### 正会員(個人)

土路生信行 内田 光江 田中 雅博

### 一般会員(個人)

坂口 孝治 秦 紀代子 平野 睦子  
塚本 哲夫 深山 博人

新規会員を募集しています。ご入会お待ち申し上げます。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。

今回から表紙の絵を描いて頂いていた空川氏に「在りし日の福岡城・鴻臚館への誘い」を冬号は先触れですがシリーズで掲載いたします。昔の福岡城の情景を想い描きながら、文章と絵をお楽しみください。また、フォトコンテストの募集も行っています。奮ってご応募ください。

本年もご支援の程よろしくお願い致します。

## 編集・発行 NPO法人：福岡市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15  
読売福岡ビル7階  
TEL 092-716-8238  
FAX 092-716-8254  
HPアドレス <http://fukuokajokorokan.info>  
E-mail [staff@fukuokajokorokan.info](mailto:staff@fukuokajokorokan.info)  
[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

## 福岡市民の会

検索



本格的な寒さが数日続いた合間の暖かな日「文化人・経済人交流望年会」が開催されました。最近「イヤなことを忘れる」会よりも「将来に希望を持つ」会が主流になっているそうです。

民謡の四天王の一人藤堂輝明さんが出演されるのも楽しみに、60名余りの方々のご参加がありました。

当会石井理事長の冒頭挨拶につきき、ご出席の方々からお言葉をいただいた後、いよいよショータイム。藤堂さんはNHKの全国放送でも活躍中であり、黒田節や刈干切唄など、各テーブルを巡りながら朗々と歌いあげ、観客の心をぐっと捕まえ放しませんでした。

民謡で盛り上がった会場では、その後も賑やかに歓談が続ぎ、あつという間に2時間が過ぎてしまいました。締めは、黒田奨学会の田中さんの博多にわかつ一夜、笑いを共有し、「望み」がそこにある

## 報告

### 第5回 文化人・経済人交流望年会

12月19日 「いちそうダイニングなつの花」にて開催